二、六九〇回のお知らせ
一八一人がマイクに向う
―57年度有線放送実績―

小さくても身近なお知らせをと、横越村有線放送協会（役場・農協共同）が発足して三年目を迎えました。

このほど、昭和五十七年度の放送実績と昭和五十八年度事業計画がまとめられ、協会の会議で承認されました。

これによると、五十七年度の定時放送では、架線の切断事故で四日間中断した以外は順調に放送され、自主番組は三〇八件、一八一人が出演。ニュース・お知らせは二、六九〇回。テレホンガイドは農事メモ一、七五一回、生活メモ一、三七八回という高い利用度を示し一日平均七・六回という高い人気を集め、効果が確められました。

一方、有線放送のもう一つの目玉であったページング（地区放送）は、機械の不調もあって十分機能できず、加入者の期待に反し、前年より五〇%増え七一回利用されたものの、機械整備と利用度向上が大きな課題とされました。

大勢が登場し親しんでもらうため、五十七年度はカラオケ、事業所訪問、この人を訪ねてなど様々な分野から出演ご協力を願った結果、自主番組の出演者は前年に比べ三一%増えました。

ニュース・お知らせでは、利用順位で役場七九八回、村内団体五九八回、農協四七八回、公民館三五〇回と続き、大口は官公庁中心でもっと各種団体、一般加入者の気軽な利用・活用が望まれています。

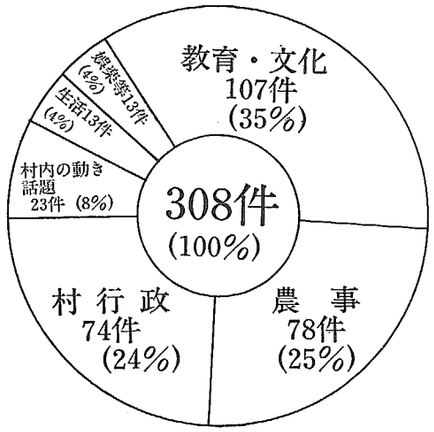
村内に出向いて取材も

五十八年度は
青年・婦人の広場
料理教室を企画

協会では、五十八年度は先ずページングの整備と利用の啓もう及び新規加入の促進を図ることとし、放送内容も新たに青年・婦人の広場、料理教室、本と私などを設け、魅力ある番組にしたいとしています。

その他、協会ではアンケート調査、カラオケ大会、レコードコンサート、放送資料出版などが企画されています。

自主番組性質別放送実績



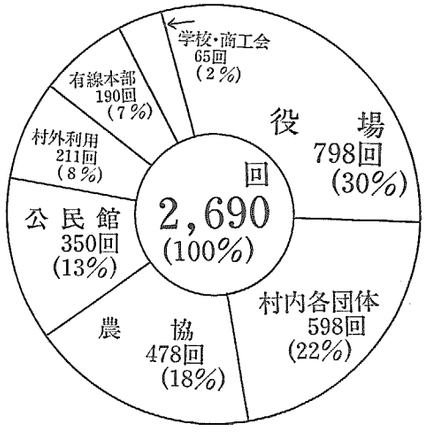
ページング利用実績

地区	回数
横越上	2
横越下	5
沢海	8
木津	9
二本木	24
小杉	20
藤駒	1
焼山	2
計	71

放送内容	
歩け運動	14
水道断水	12
運動会	7
廃品回収	5
道路交通	4
文化祭	4
親子キャンプ	4
盆おどり	3
共同防除 落し物他	18

放送者	
区長	36
青少年育成会議	22
分館長	8
防除組合	2
カラオケ会	2

ニュースお知らせ実績



献血・公衆衛生活動
功労者を表彰

村公衆衛生協議会は、三月二十九日の総会で献血を一六回行った山田晃章さんら五人と、公衆衛生活動に功労のあった佐藤千代志さんら五人を村とともにその功労を讃え表彰状と記念品を贈りました。

なお、表彰された方は次のとおりです。

献血功労者

一六回　山田晃章（木津）
一三回　佐藤信夫（沢海）
一三回　角田邦夫（沢海）
一二回　鈴木和秋（沢海）
一一回　石井清（木津）

公衆衛生活動功労者

佐藤千代志（木津）
坂井イシノ（木津）
仁多見弥生（沢海）
高橋明子（横越）
渡辺峯子（小杉）

小学校教職員異動

◎先月号で小・中学校教職員の異動を紹介しましたが、新たに次の先生が転入されましたのでご紹介します。

新卒　奥村陽子教諭

水道週間6月1日～6月7日
阿賀野川浄水場一般公開
6月5日 午前9時～午後4時
（多数の御来場をお待ちしています）

春の全国交通安全運動　5/11～20

ドライバーは
安全運転の原点に戻ろう

わが国の自動車保有台数は二輪車を含めて五、六〇〇万台に上り、世界第二位の保有台数です。また、運転免許保有者は四、七〇〇万人を超え運転免許適齢人口の二人に一人は免許保有者となっています。これらの数字は年々増加しており、保有台数は年間で三〇〇万台、免許保有者は二〇〇万人と確実に増え続け、まさに本格的な車社会、国民皆免許時代を迎えようとしています。

一方、交通事故による死者数は、ここ数年横ばいで推移していましたが、昭和五十七年度は前年に比べ三五四人（四・一%）増加し、昭和五十一年以来六年ぶりに九、〇〇〇人を超えました。

これらの事故の特徴を見ると、スピードの出し過ぎにより単独でガードレールなどにぶつかる事故や、車同志の正面衝突などの無謀運転や運転技術の未熟さによる事故が多発しています。

今年も五月十一日から二十日までの十日間「春の全国交通安全運動」が実施されます多発する事故の特徴をふまえ次の三項目を重点に運動が展開されます。

①歩行者および自転車利用者、特に子供と老人の交通事故防止。

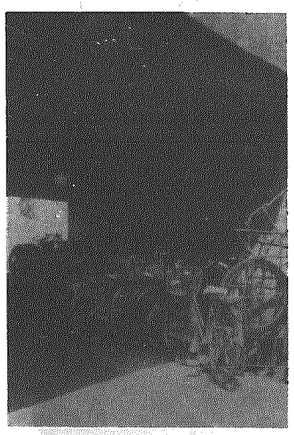
②二輪車の安全利用、特に交差点での安全確認の励行とヘルメット着用の徹底。

③安全運転の確保、特に交差点での安全確認の励行とシートベルト着用の推進。

この運動を契機に、ドライバーの皆さんは、もう一度、安全運転の原点に立ち返り、万全の注意を払いましょう。

特に横越中地区の国道四十九号線ガード下では、自動車がやっと通れるような道路状態です。

このような利用の仕方は、自動車を利用する人のモラルに負うところが極めて大きく一人一人の自覚が何よりも必要です。


▲ あいかわらず
放置されている自転車

5月は自転車月間

放置自転車を一掃しよう

自転車は、通勤・通学・買物などの手軽な交通手段として、あるいは健全な屋外スポーツ・レジャーの用具として年々その利用者が増えています。

しかし、その一方で、駅周辺に放置される自転車の台数も増加を続け、今では全国で一〇〇万台に上るといわれています。

村でも、通勤や通学で自転車を利用している人達に対し三年前旧横越小学校跡地に自転車小屋を新設しましたが、利用者がほとんどありません

その反面、あいかわらずバス停附近の道路、あき地に依然として自転車・ミニバイクが放置されています。

＜この人を訪ねて＞

書・俳句・編物など
することといっぱい
毎日が忙しく楽しい

木津　笠原ミツノさん（78才）

色々な趣味に親しみ、毎日を充実した気分で余暇を楽しんでいる方がおります。この方は、七八才の木津の笠原ミツノさんです。

笠原さんを訪ねるとき、ある人からは短歌を、またある人からは俳句も書道もやっていると聞き、どんな方だろうと半ば恐れながらお邪魔してみました。

会ってみると、きさくな優しいお姥さんで、腰を曲げられていますが、顔の艶もよく話しているときは、瞳が若々しく輝きます。

先ず毎日どんなことをして過しているかをお聞きしますと、「俳句・書道・読書・編物など、雪が消えれば庭木の手入れも面白く、したいことがあれもこれもといっぱいあって、どれ一つ取ってもろくなものがなく、八細工七貧乏なんです」と謙遜されています。

俳句では、公民館の募集には殆ど欠かさず応募し、今までに高点句になったり、また推せん句、佳作なども多く立派な成績を挙げています。

書道にいたっては墨痕鮮やかな条幅（写真）に、感心させられました。

笠原さんが書道を始めたきっかけは、お孫さんの書初めを見ていて、私も書いてみよう、とふと思い立ったのが今日まで続いており、分館の書道教室に通って八年。習字は日課の一つとしています。

最近、憶えたのが編物で、編物の本を買ったら本屋さんが子供さんのですかと聞くので、私がするんですといったら本屋さんがびっくりしたといいます。家では家族の着るセーターなど殆ど私の手製です。と見せてくれました。

笠原さんは、器用なことも一因ですが、「自分もしてみよう」という好奇心と勇気が自ら世の中を何倍にも楽しいものにしているのではないでしょうか。

まさに生きがいのお手本を見た思いです。

公民館公募句から

子を抱いて光る猫の目わらの中
陽炎や山羊腹ばいてかみ返す

好きなことをしているときが一番
満足ですと、書は日課の一つに